

# コロナ前後における紙書籍と電子書籍の売り上げ推移

上本 祥貴(210x204x)

## 1.Introduction

近年、電子書籍の台頭によって紙媒体による書籍の売り上げが減少していると言われている。一方、新型コロナウイルスによる外出自粛要請の影響から、屋内で出来る暇つぶしの道具として、ゲームや漫画、本などの売り上げは増加している。外出自粛が望まれている現状から考えると、コロナ禍中においては電子書籍の需要は増し、紙媒体の書籍の売り上げは減少傾向が加速すると思われるが、実際はどのようなのだろうか。

## 2.Method

今回紙媒体の書籍と電子書籍の売り上げの推移の傾向を見るに当たって、紙媒体からは書籍と雑誌、電子書籍からは書籍、雑誌、コミックを対象として2014年度から2020年度のデータを可視化し、ジャンル別に色分けして売り上げそのものを扱った積み上げ棒グラフと、2014年の売り上げとの比率を示した折れ線グラフを作成した。このデータは、全国出版協会・出版科学研究所[1]のデータを基に書かれたHON.jpの記事[2]を参考としている。両者に使われている色は対応しており、水色が紙媒体の書籍、青色が紙媒体の雑誌、赤色が電子媒体の書籍、紫色が電子媒体の雑誌、桃色が電子媒体のコミックである。折れ線グラフは最初全ての色について表示されているが、積み上げ棒グラフのクリックした色と同じ色の折れ線が表示されるようになっており、同じ色をクリックすると状態が解除される。

## 3.Result

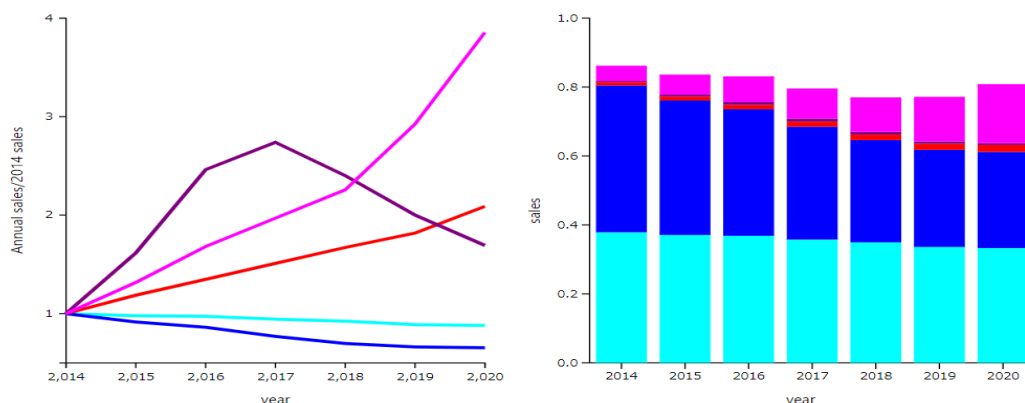


図:2014年度との売上比較(左)と年度別売上(右)

今回作成した2つのグラフが上図である。ただし、積み上げ棒グラフの縦軸の1.0に対応する値は2兆円である。

#### 4.Discussion

3における図を見ると、紙媒体の書籍、雑誌の売り上げは確かに減少傾向にあるが、左図の折れ線グラフを見るとその減少傾向について書籍はほぼ一定の割合で減少しており、雑誌はコロナウイルスの発生後である2019年度以降は前年までに比べると減少がゆるやかになっており、コロナ禍は紙媒体の出版業界に対して追加でダメージを与えたのではないように思われる。一方で電子媒体の書籍は2020年度、コミックは2019年度からそれまでよりも高い成長率を発揮していることが見受けられ、コロナ禍が成長を促進させたと考えられる。

#### 5.Conclusion

コロナ禍は電子媒体の書籍、コミックの需要に対して影響を与え、これらの業界の成長を促進させたが、一方で紙媒体の書籍、雑誌に対してはコロナ禍前後で減少傾向に大きな違いは見られなかった。紙媒体と電子媒体の売り上げの差についてはコロナ禍は影響を与えたと言えるが、コロナ禍によって紙媒体の衰退が加速したということは言えなかった。

#### 6.Reference

[1] <https://www.ajpea.or.jp/book/2-2101/index.html>

[2] <https://hon.jp/news/1.0/0/30504>